

男女共同参画

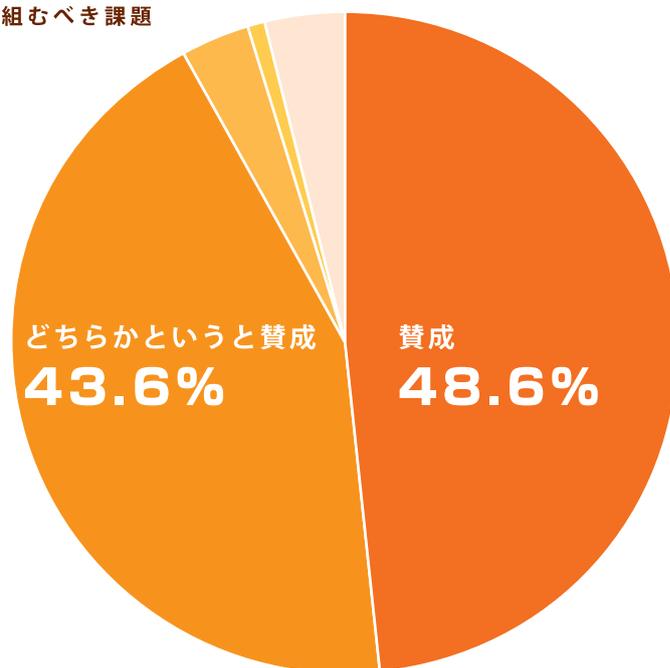
信州大学における 男女共同参画の推進に関する アンケート調査結果概要

教職員調査

- 仕事と子育て・介護の現状
- 仕事と子育て・介護の両立支援のために優先的に取り組むべき課題
- 職場環境についての実態
- 信州大学における男女共同参画について
- 男女共同参画を推進するための意見・要望など

大学院生調査

- ジェンダー意識
- 結婚・職業等に関する意識
- 所属している研究科に対する考え



Q. 信州大学において男女共同参画を推進することに賛成ですか？

信州大学では、2011年9月に、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、9月に男女共同参画推進委員会、10月に松本・長野（教育）両キャンパスに女性研究者支援室が設置されました。12月には男女共同参画宣言が制定され、今後3年間に女性教員比率を現状の11.9%（信州大学は86国立大学法人中65位）から13.7%まで上昇させ、女性研究者が能力を最大限発揮できるよう、研究と出産、子育て、介護などを両立できるようにするための環境整備に努めています。

上記支援事業の申請に先立って、本学における仕事と子育て・介護の両立、職場環境、男女共同参画に関する現状や課題の把握と、今後の取組みに必要な基礎資料を得るために2010年11-12月にかけてアンケート調査を実施し、「信州大学における男女共同参画の推進に関する調査研究プロジェクト報告書」（全180頁）として2011年3月に発行しました。このリーフレットでは、アンケート結果の一部を抜粋し、ご紹介いたします。

報告書は、信州大学女性研究者支援室HP（2012年3月開設予定）からダウンロードが可能です。ご希望の方には報告書を差し上げますので女性研究者支援室までご連絡下さい。

アンケート調査の対象者：配布数3459（教職員2379、大学院生1080）のうち有効回収は下記の通り。

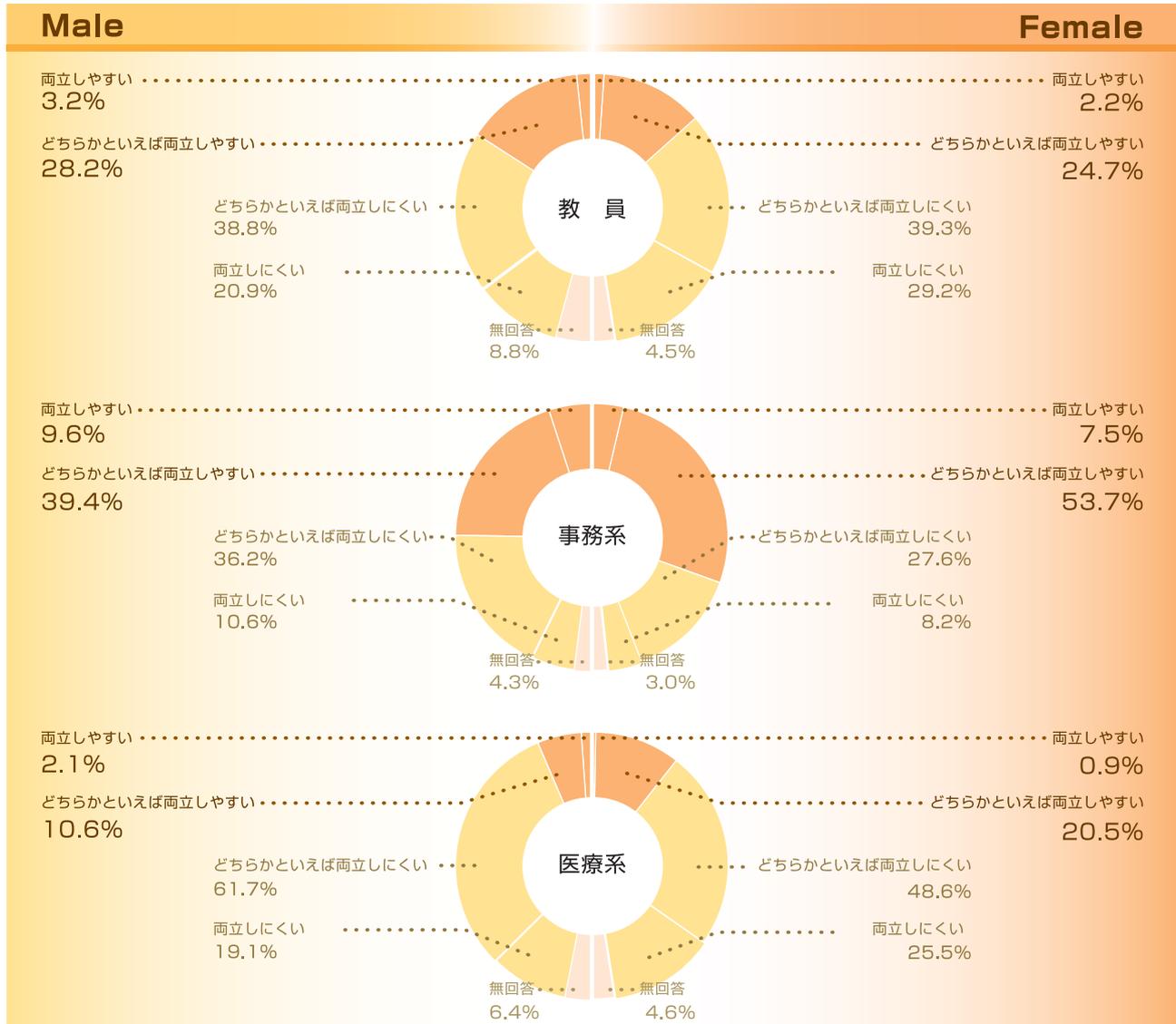
| | 教職員全体 | 教員 | 事務系 | 医療系 | 大学院生 |
|----|-------|------|------|------|------|
| 男性 | 793人 | 464人 | 282人 | 47人 | 373人 |
| 女性 | 682人 | 89人 | 134人 | 459人 | 171人 |
| 合計 | 1475人 | 553人 | 416人 | 506人 | 544人 |



1 仕事と子育て・介護の現状

Q. 信州大学は仕事と子育て、介護の両立がしやすい環境だと思いますか？

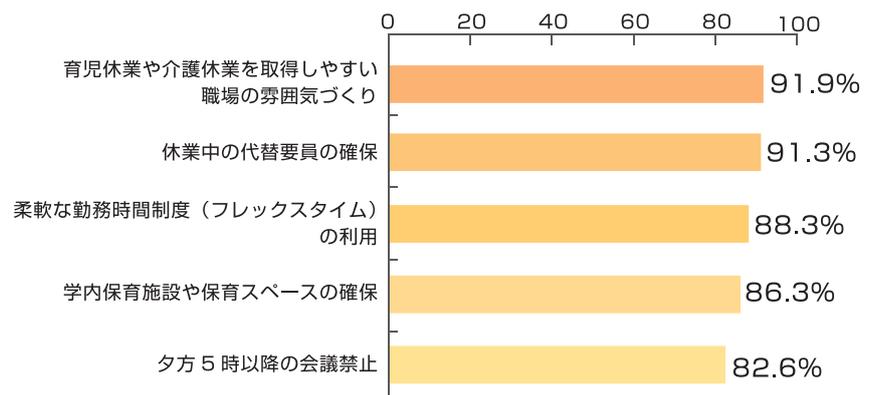
信州大学での仕事と子育て・介護の両立のしやすさについて、肯定的回答（「しやすいと思う」または「まあしやすいと思う」）は全体の 3 分の 1 にも満たず、否定的回答が 6 割を超えている。職種による意識の差が大きく、事務系の約半数以上が肯定的に回答している一方で、教員および医療系では 6～8 割が否定的に回答している。



2 仕事と子育て・介護の両立支援のために優先的に取り組むべき課題

Q. 仕事と子育て・介護の両立支援のために信州大学では何に積極的に取り組むべきですか？

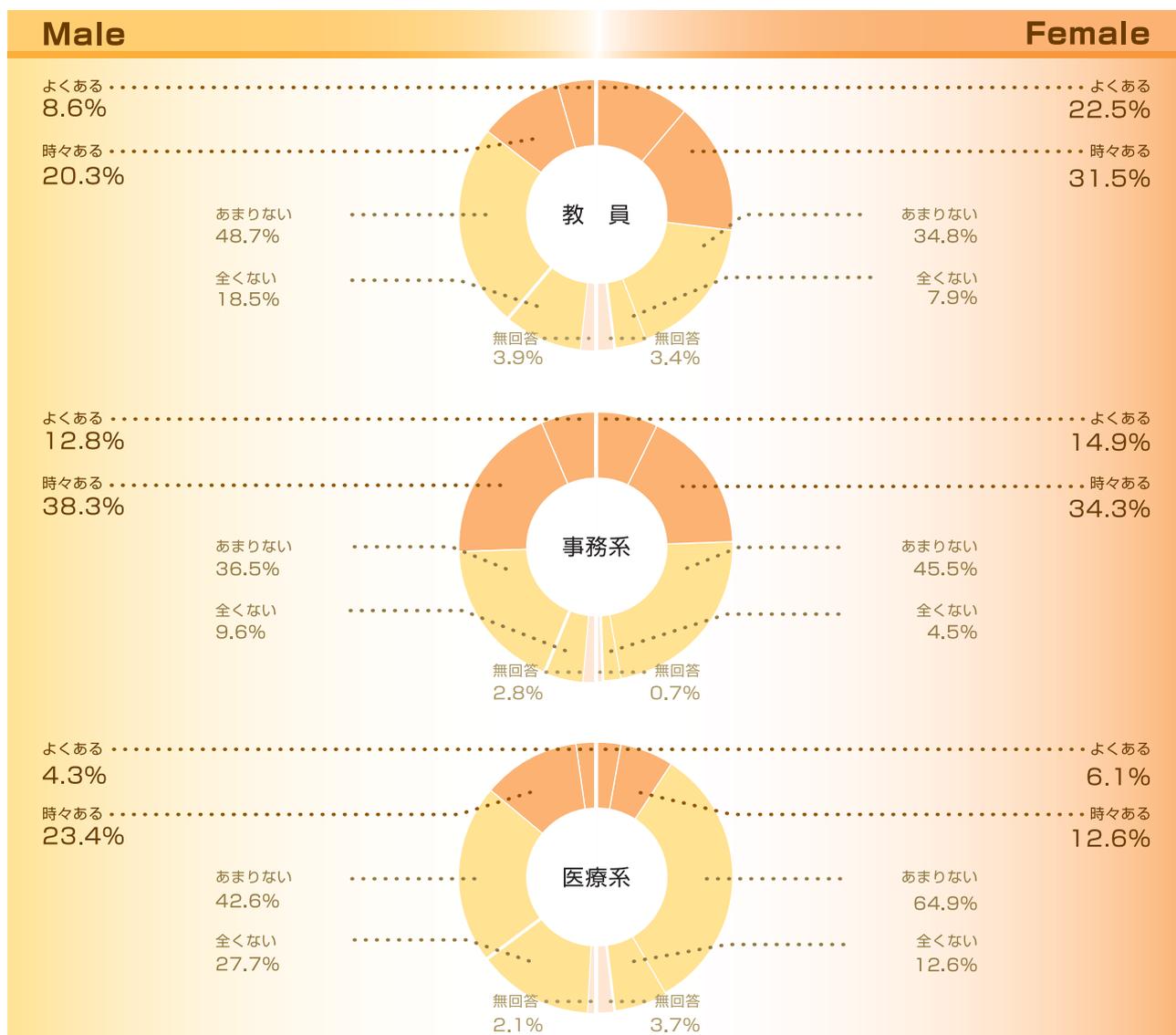
仕事と子育て・介護の両立支援のために取り組むべき項目については、右記の項目が上位に選択された。数字は、各項目について「積極的に取り組むべき」または「ある程度取り組むべき」を選択した回答者の割合である。



3 職場環境についての実態

Q. 性別により人事が異なると思うことはありますか？

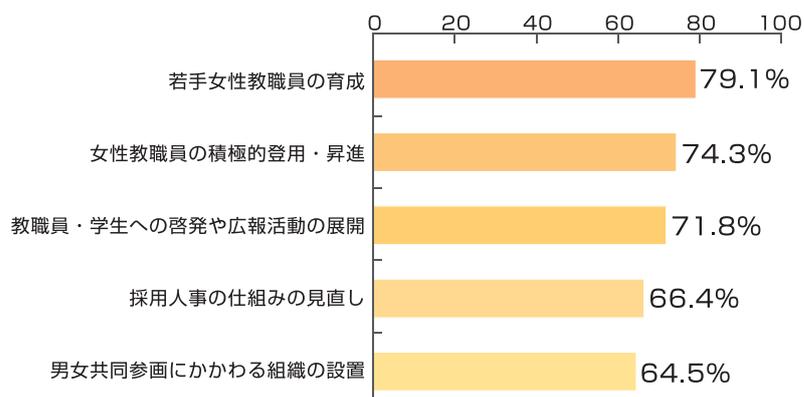
「性別により人事（採用、昇進、配属など）が異なると思うか」の問いに、「よくある」、「時々ある」と全体の3分の1が回答している。女性教員と事務系男女では、約半数になるものの、医療系女性は18.7%と最も低く、医療系男性が27.7%、男性教員が28.9%になっている。



4 信州大学における男女共同参画について

Q. 信州大学において、男女共同参画推進に必要なことは何ですか？

信州大学における男女共同参画の推進については、9割以上の回答者が賛成しているものの、女性教職員が活躍するための支援の充実度については、やや不十分、または不十分との回答が多かった。信州大学で男女共同参画の推進のために必要な項目としては、右記の項目が上位に選択されている。数字は、各項目について「積極的に取り組むべき」または「ある程度取り組むべき」を選択した回答者の割合である。



Q. 信州大学における、女性教員の適正な比率（助手を除く）はどの位だと考えますか？

女性教員の適正比率として、全体では、男女ともに適切な比率として「20%以上」との回答が6割強を占めている。また、適当な比率として、「30%以上」との回答が最も多く、全体の3割程度を占めている。女性教員では、4分の3の回答者が「20%以上」を適切な比率と考えており、「30%以上」との回答は、37.1%と高率である。事務系男性では、「20%以上」を適切とする割合はもっとも低く、58.9%である。医療系男性では、「30%以上」を適切な比率との回答が最も多く、38.3%であった。



5 男女共同参画を推進するための意見・要望など

約300名の教職員の方々から頂いた自由記述からの一部をご紹介します。

女 性研究者の交流の場があるとよいと思います。どの学部にも、どの分野に、どのような女性研究者がいるか、育児や家庭との両立をどうしているのか等、情報交換できる場がほしいです。

病 院系職員のための託児所はあるのに、なぜ他の職員のための託児施設はないのでしょうか？

早急な環境整備を望みます。

男 性側が変わらないと共同参画は難しいと思います。男性が介護・育児・年次休暇を取得しやすい雰囲気を作成することが長期的に見て共同参画につながると思います。

常 勤の女性教員がいない学部があり、採用人事の仕組みを見直す必要があります。ポジティブアクションも必要ではないか。

女 性に特化して採用・登用・昇進すべきでない。女性を優遇・積極的に…という事は既に男女差別です。

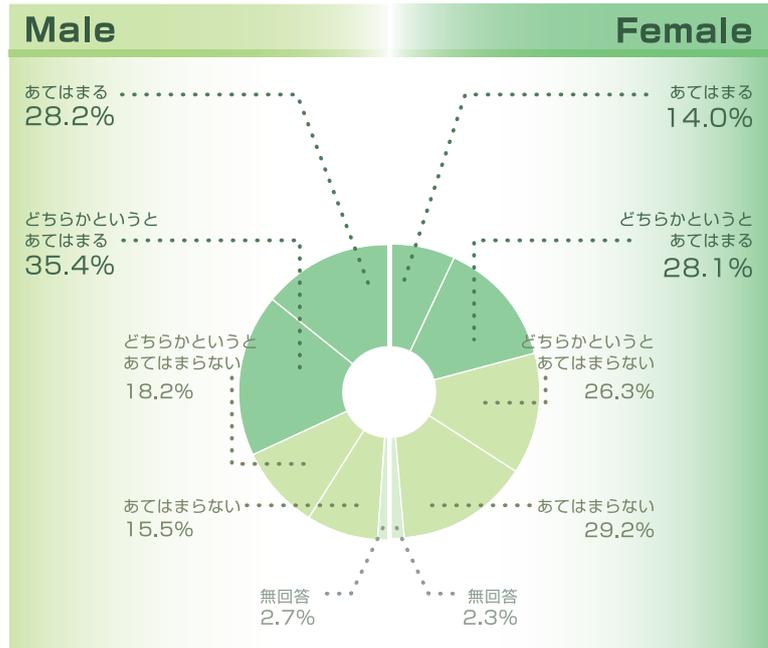
17 時以降の会議は早急に止めていただきたい。小さい子を抱える身にはやりくりが大変です。

女 性の教職員登用はもっと積極的に推進して欲しい。意思決定を行う上層部に女性を多く登用していくこと。

1 ジェンダー意識

Q. 女性は女らしく、男性は男らしくあったほうがよいと思いますか？

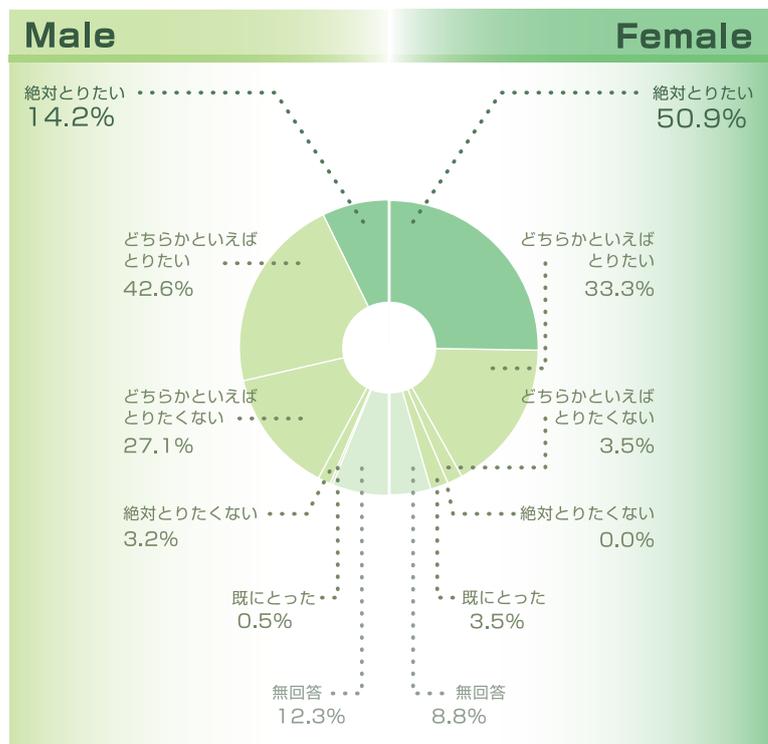
「男性は背が高くなければと思う」、「子供を他人に預けてまで母親が働くことはない」、「夫婦は共に仕事を持ち、家事や育児を平等に分担すべき」、「男女の能力差よりも、個人の能力差のほうが大きい」、「妻が仕事をするのはいいが、家事の手抜きをするのは好ましくない」「女性は女らしく、男性は男らしくあったほうがよい」「恋人同士ならば、飲食代は男性が支払ったほうがよい」など 20 項目の意見に対して、同意するか否かたずねたところ、**男女間で回答傾向がもっとも大きく異なったのは、「女性は女らしく、男性は男らしくあったほうがよい」である。この意見に肯定的な回答をよせたのは、男性 63.6%、女性 42.1%であり、約 22 ポイントの差があった。**「出産後、女性が一時的に退職するのはやむをえない」「妻が仕事をするのはいいが、家事の手抜きをするのは好ましくない」についても、男女差が大きかった。



2 結婚・職業等に関する意識

Q. 子どもが生まれたら、育児休業を取りたいですか？

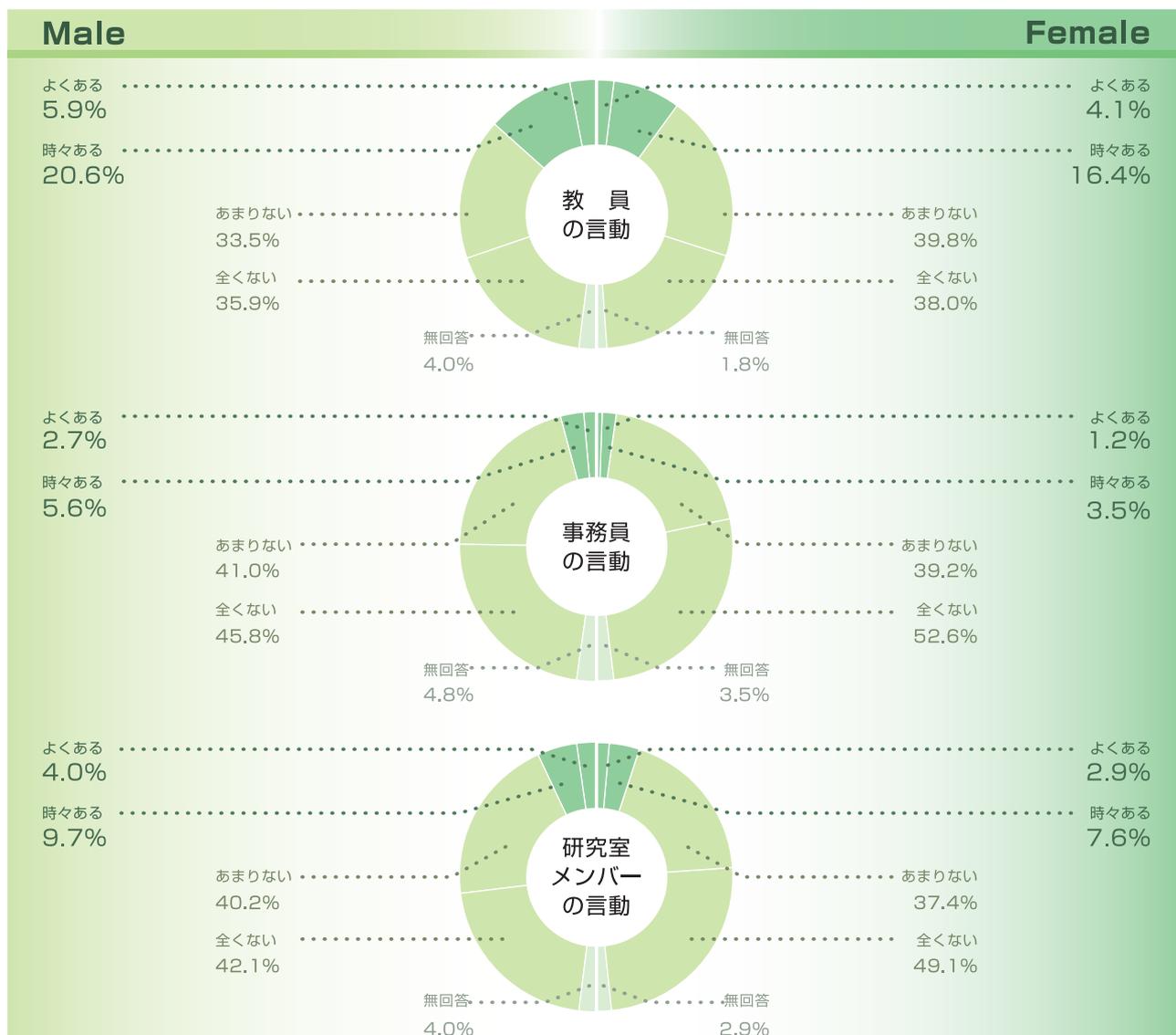
未婚の大学院生の8割近くは、結婚について「絶対したい」または「できればしたい」と考えている。この点に男女差はほとんどない。ところが、「子どもが生まれたら育児休業をとりたいですか」の間に対しては、**大きな男女差があった。「絶対とりたい」との回答は、男性 14.2%に対し、女性 50.9%である。**研究職に対する希望については、男性の 21.9%、女性の 16.2%が「研究職に就きたい」と回答しており、「研究職にはこだわらないが現在の研究を活かした職業に就きたい」という回答は男性 36.5%、女性 43.2%で、両者を合わせると6割近くが現在の研究に基づく職業を希望している。



3 所属している研究科に対する考え

Q. 女性が不平等に扱われていると思うことがありますか？

大学院生の約 80%は、信州大学は男女に関わりなく自分の能力を発揮できる環境であると考えている。この認識に、男女差はほとんどない。「女性が不平等に扱われていると思うことがありますか」の問いには、「事務職員の言動」については、「よくある」、「時々ある」との回答は、女性で 4.7%、男性で 8.3%のみで、「研究室のメンバー」についても、女性で 10.5%、男性で 13.7%であった。その一方で、「教員の言動」については、女性で 20.5%、男性で 26.5%と高くなっている。



発行
発行日
お問い合わせ先



信州大学男女共同参画推進委員会／信州大学女性研究者支援室
2012.2.27

信州大学 女性研究者支援室 長野分室
〒380-8544 長野県長野市西長野 6-口
TEL/FAX : 026-238-4048
E-mail : sufre@shinshu-u.ac.jp
開室時間 : 9 : 00 ~ 17 : 00 (月~金)

Sufre
Support Office for Female Reseachers